

1. 富士山ハザードマップの改定に伴う本町の対応について

令和3年3月26日、富士山火山防災対策協議会（山梨県、静岡県、神奈川県、関係市町村、国）が、開催され富士山ハザードマップを17年ぶりに改訂し公表した。

今回の改定での調査対象は、前回の3200年前以降から5600年前以降に拡大し、想定する火口の範囲を広げ、地形データも詳細に反映し、溶岩の噴出量は、記録上最大とされる13億立方メートルとしたとの事である。

これまでも降灰による影響は想定されていたが、今回の改定では最悪の場合、溶岩流が本町を含む足柄平野2市4町にも到達するとの事である。

翌日からのマスコミ各社の報道を見ると「開成町は約18000人が暮らし、人口増加率は県内トップクラス。家屋は6500棟に上る。

そんな町の全域が、大規模噴火時には溶岩流に覆われる可能性をつきつけられた」などもある。最悪の場合、町が消滅してしまうという本町にとって極めて大きな問題がつきつけられた今回の改定である。

一方で本町を含む足柄平野には過去5600年、175回の噴火の歴史上溶岩流が到達した事実はない。

本町ではこの問題をどのように捉え今後どの様に対応していくのかを問う。